



真宗大谷派 存明寺通信

No.183

2018年(仏歴2549年)3月18日発行

### お寺につどう人々

→こども食堂・多くの方々の居場所に。



→樹心の会・親鸞聖人に人生を学ぶ。



→帰敬式・新しく仏弟子の誕生。



仏教には、「帰巢性」(きそうせい)という言葉がある。人間である以上、誰もが心の奥底で抱く「願い」のことである。

その願いとは、エサを求めて大空を飛び回っていた鳥たちが、夕方になると自らの巣に帰るように、人間もまた、本当に帰るべき世界を求めずにはおられないという願いである。そのような願いを誰もが心の奥底で抱くというのである。人は、心の底から落ち着ける居場所を求めように出てくるのである。

私もあなたも、そのような世界を求めてやまない旅人。

さあ、ともに帰るべき世界を、求め続けよう。

さあ、ともに帰るべき居場所を、見つけよう。

ぞんみょうじ 存明寺HP、随時更新中 しんらん であ 親鸞と出会うお寺

<http://www.zonmyoji.jp>

↓一品持ち寄り、真宗の香りただよ？「おとな食堂」



# 誰もが皆、問題を抱えている

酒井 義一（存明寺住職）

存明寺のすべての活動で大切にしたいことを「10ヶ条」に掲げています。その中のひとつに「誰もが皆、問題を抱えている」という言葉があります。

親鸞聖人の『教行信証』の中に、「五濁・五苦・六道」という言葉が出てきますが、それは誰もが皆、五つの濁り・五つの苦しみ・六つの迷いを抱えているということです。

五濁の中のひとつ「見濁」。それは、自分を中心にしかものを見ることができないというもの\*の見方の濁りです。自分を中心にも存在を見失ってしまうのです。言葉を変えれば、その濁りさえ破られれば、そこにも人がいたという出会いに通じる世界が開かれるというのです。

また、五苦の中にある「愛別離苦」。それは、愛する者と別離する時に感じる苦しみです。言葉を変えれば、愛する者を失った時に、人間は苦しみや悲しみを感ずることでできる力をすでに与えられているということ\*です。それは、苦しみや悲しみには、必ず意味があると\*いうこと\*に通じていくのです。

六道の中にある「天上界」。それは、なんでも思い通りになる世界です。しかし、なぜか空しい世界だと説かれています。楽しければそれでよいという世界だけでは、人は心の底からの満足を得られないのです。自分の生涯を貫くような願いが見出せない\*と、それは空しいことだと教えられているのです。

人は誰もが皆、問題を抱ながら今を生きています。しかし、だか

らダメなのではなく、問題を抱えるから、そのような人間にこそ届けられるあたたかな言葉、教え、世界がある\*ということ\*を明らかにしているのが親鸞聖人の仏教です。

もちろん、自分を抜きにしてその世界を明らかにすることなどはできないことです。私も問題を抱える者のひとりとして、あたたかな教えの世界に出会っていくことを、大切にしていきたい\*ものです。

親鸞聖人は「苦悩の有情をすてずして…大悲心をば成就せり」（正像末和讃）と言われます。それは、苦悩する人々をけつして見捨てない世界がある\*ことの高らかな宣言です。人間の存在を徹底して悲しみ続けている、愛と力のもった言葉です。人間を見つめていく頼もしさやいとおしさが、この言葉にはこもっている\*のではないのでしょうか。

人は誰もが皆、問題を抱えている…。大切にしたい\*ことです。

了

## 【大切にしたいこと】

存明寺でのすべての活動で、大切にしていきたいこと10ヶ条です。

- 1 心を込めて、正信偈。
- 2 人の話は、しつかり聞く。
- 3 自分の言葉で、自分を語る。
- 4 失敗なんて、あたりまえ。
- 5 動きながら、学ぶ。
- 6 場の力を、信頼する。
- 7 誰もが皆、問題を抱えている。
- 8 誰もが皆、道を求めている。
- 9 悲しみ苦しみを、生きる力に。
- 10 役があたれば、よろこんで。

親鸞と出遇うお寺  
真宗大谷派 存明寺



## 親鸞につどう報恩講



↑報恩講には多くの方々にご参詣をいただきました。



↑ゲストのきみえさんと坊守のトーク。

## 仏教徒入門の儀式・帰敬式



↑帰敬式、正信偈の唱和の様子。



↑帰敬式お祝いの宴、乾杯の様子。

## 親鸞につどう報恩講

11月2日・3日、浄土真宗の宗祖・親鸞聖人を偲ぶ「報恩講」が行われました。講師は、2日に堀秀隆さん（台東区来応寺）、3日にきみえさん（真宗大谷派僧侶）にお越しいただき、二日間にわたり親鸞聖人に思いをはせる時を過ごしました。

教えとなつて今も生きてはたらく親鸞聖人に出会うことが報恩講法要の大きな願いです。

一年で最も大切な法要。毎年11月2日・3日に行われます。ぜひご参詣ください。

## 報恩講法要 語録

\* 住職の問法こそが、無言の教化となる。

\* 居場所を見い出す、関係性を見い出す、それだけで生きる力を与えられる。

（以上堀秀隆さん）

\* 嵐いばらし 踏みこえて  
ただ真実の 白道を  
歩みつづけし わが父の  
親鸞さまは なつかしい  
（きみえさん）

## 仏教徒入門の儀式・帰敬式

12月2日（土）に「帰敬式」が行われ、新しく25名の方々が仏弟子となり、法名が授与されました。

この帰敬式は1989年から行われており、今回で9回目、受式者合計は215名となりました。

本堂では、剃刀（おかみそり）や正信偈の唱和、一人ひとりによる誓いの言葉などが行われ、客殿では、食事を共にしながら、受式者やスタッフのスピーチなどがありました。

「夫の死が縁となつて」「こども食堂がきっかけ」「ネットで存明寺へ」など、それぞれの出会いが語られます。

した。今後お寺を自らの居場所として、ともに教えに学んでいきたいと思えます。

## 帰敬式受式者 名簿

（敬称略）

浅田文江・阿部勝己・井上禎  
井上圭子・猪子一雄・猪子乙儀  
猪子洋子・内海 淳・内海一枝  
北山千恵・北山健一・源田久子  
小島静江・高岡文子・中村秀男  
中村清美・長島 巖・萩本恒雄  
萩本尹久子・藤井健一・藤井みずす  
松本維邦・溝口 正・森 泉  
山口明雄  
（以上25名）

3月10日(土)	14時	樹心(じゆしん)の会
<b>3月21日(水)</b>	11時と13時	春のお彼岸法要 <small>ひがん</small>
3月24日(土)	14時	グリーンフケアのつどい
4月7日(土)	14時	樹心の会
4月28日(土)	10時	おみがきのつどい
<b>5月3日(木)</b>	12時	永代経法要 <small>えいたいきやう</small>
5月12日(土)	14時	樹心の会
6月9日(土)	14時	樹心の会
6月23日(土)	14時	グリーンフケアのつどい
7月7日(土)	11時	新盆法要 <small>にいぼん</small>
7月14日(土)	11時と13時	お盆法要 <small>ぼん</small>
8月25日(土)	午後	青年のつどい
9月8日(土)	14時	樹心の会
<b>9月23日(日)</b>	11時と13時	秋のお彼岸法要 <small>ひがん</small>
9月29日(土)	14時	グリーンフケアのつどい
10月13日(土)	14時	樹心の会
10月27日(土)	10時	おみがきのつどい
11月2日(金)	14時	報恩講のゆうべ <small>ほうおんこう</small>
<b>11月3日(土)</b>	<b>12時</b>	報恩講法要
11月17日(土)	14時	樹心の会
11月下旬(予定)		真宗本廟報恩講奉仕団 <small>しんしゅうほんびやうほうおんこうほうしだん</small>
12月8日(土)	14時	樹心の会
12月15日(土)	14時	グリーンフケアのつどい
<b>1月1日(元旦)</b>	10時	修正会

- ◎ぞんみようじこども会 月一回
- ◎ぞんみようじこども食堂 月一回
- ◎子育てサロンいちごのへや 月一回

★どうぞお気軽にご参加ください。

お寺の風景の写真提供:高橋昭彦さん(存明寺世話人)

春のお彼岸ひがん法要

**3月21日(水・春分の日)**

11時と13時(2回)

内容 正信偈の唱和・お話  
お話 酒井義一住職とご門徒有志  
※一回40分程度。ご参詣ください。

春の法要

永代経法要えいたいきやう

日時 **5月3日(木・祭日)** 正午

講師 海 法龍先生(三浦・長願寺)

講題 終わって、始まる

場所 真宗大谷派 存明寺

日程 12時 お昼ごはん(精進料理)

13時 永代経法要

14時 永代経法話(海先生)

15時 閉会・解散

◎4月28日(土) 10時〜12時

おみがきのつどい

清掃の日、ご協力をお願いします。



【あしがき】

▼先日ちよつとした失敗をした。それなりに落ち込んでみると、平昌五輪ヒョンチャンの歌が私に響いてきた。

夢を追う君へ/思い出して/つまづいたなら/いつだって物語の主  
人公は笑われる方だ/人を笑う方  
じゃないと僕は思うんだよ

「サザンカ」 SEKAI NO OWARI

▼人に笑われるようなつまづきが、人を育てていくのだよ。たとえ笑われてもそこから学ぶ主人公であってね、と。  
▼なんだか励まされた。(住職)



生きるカンパ御礼

内井照江さん・禿覚英さん・島田レイ子さん・竹下素子さん・羽田節子さん・本多清江さん・松本順子さん  
(合計 四〇、〇〇〇円也)

東京都世田谷区北烏山4-15-1

真宗大谷派 存明寺

住職 酒井義一(釋諦信)

〒157-0061 TEL 03-3300-5057

FAX 03-3300-5880

E-mail : sakai@zomyo-ji.jp